

すてい〜ぶと
ゆかいな
なかまたち

【清楽月琴譜】



「工尺譜」っていうのは中国の古い楽譜だよ～。
 中国は漢字の国だから、ドレミを漢字にあてはめたんだね。

ソ	ラ	シ	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド	レ	ミ
5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3
合	四	乙	上	尺	工	凡	六	五	乙	仕	伋	仨

明笛はこの並びだけど、月琴は「上」より低い音がないから、「合四」はぜんぶ「六五」と同じ音になるよ。

上—エ—	尺—○	エ—四上	尺工上四
看 々	兮	賜 奴 的	九 連
合—合四	仕—仕合	四—○	四仕四仕
環	九呀九連	環	双 手 拿 来
四—仕四	合—○	四合四仕	合—○
解 不 解	拿 把 刀 兒	割	
工—工—	尺工六一	五六工尺	上—尺
割 不 断	の 了	也 々	吻
上—○			

1文字が1拍だよ。「—」は1拍伸ばす、「○」は1拍休むで、半分の音は「上」みたいに細くなって下線がつくよ。

下段には歌詞がつくよ。

$\text{エ} / \text{六}$	— —		$\text{尺} / \text{上}$	エ	尺		$\text{上} / \text{六}$	エ
お			も	い	で		の	な
$\text{エ} / \text{六}$	— — —		$\text{エ} / \text{仕}$	— —	$\text{上} / \text{尺}$		尺	— —

音符の上とか下に付いてるこの小さい字は、コード演奏の符だ。月琴は伴奏楽器なんで、歌いながら弾くとかの時はコード演奏のほうがラクだぜ。

「エ/六」ってあったら「ミ」と「ソ」だから、低音弦の2フレット目を押さえてジャランと弾く、高音弦は押さえないでいい。
 「エ/仕」なら低2と高3を指2本で押さえてジャランだ。
 メロディに関係ない音を入れたい時は「凡/尺」のどこみたいに符の外に書くぜ。

コード演奏はきほんコードのあるところだけ弾いてればいいぜ。
 余裕があったら、サビのとことかパラパラと弾いてやるとカッコイイぞ。

001. Open Thy Lattice, Love

六-凡[▽]六五五〇六 | 六一任仕一六 | 六凡工工-凡工 |
なれのまど は な て よ う みよりなでる

尺-工凡工-〇六 | 凡[▽]-工凡[▽]六-凡[▽]六 | 五-五乙-仕乙 |
すずかぜ つ き かげあおき みな もす べり

乙-五乙[△]仕仕-五 | 六五-凡[△]六-〇六 | 仕-六六六-凡工 |
ほしはなれを みまもる あ さ ひのおかに

凡六凡工-工 | 尺尺工六凡尺 | 上仕五六-凡 |
さすまえ は やゆかん うみの はてまで さあ

工工凡六五〇五六 | 六凡六任-任尺 | 仕乙五六-凡工 |
なれのまどはな あて や つき もそよか ぜも

尺-凡工上-
まってゐる

Open thy lattice love, listen to me!
The cool balmy breeze is abroad on the sea!
The moon like a queen, roams her realms of blue,
and the stars keep their vigils in heaven for you
Ere morn's gushing light tips the hills with its ray,
Away o'er the waters away and away!

※Then open they lattice, love listen to me!
While the moon's in the sky and breeze on the sea!

Open thy lattice, love listen to me!
In the voyage of life, love our pilot will be!
He will sit at the helm wherever we rove,
and steer by the load-star he kindled above
His shell for a shallop will cut the bright spray,
Or skim like a bird o'er the waters away.

※

フォスター 16 歳時の作曲になる処女作。
issued:1844

要チョーキング音は「凡[▽]」のみではあるが、
F・F[#]ともに用いられるので、尺合調では弾け
ない。

汝れの窓 はなてよ
海よりなでる 涼風
月影 碧き 水面 すべり
星は 汝れを 見守る
朝日の丘に 射す前
はや行かん 海の果てまで
さあ 汝れの窓 はなてや
月も そよ風も 待ちゐるに

汝れの窓 はなてよ
御子の指さす御ままに
われらは 帆綱 とりて めざせ
御子のともす あの星
光の船は軽(かろ)やに
水面の間を 散らすよ
さあ 汝れの窓 はなてや
月も そよ風も 待ちゐるに

002. Jeanie with the light brown hair

(上合調)

* 解説別掲

(尺合調)

<p>凡_レ 尺一 凡_レ 仕一 一五 五^上 五六 凡 五^上 一上 尺 凡_五 一 一〇 </p> <p>い と し な れ が あ ま い ろ の</p> <p>凡_五 一 六 五 凡_レ 尺一 尺一 凡_レ 仕一 五六 凡 六^上 〇 尺一 </p> <p>か す む よ う な か み の い ろ な</p> <p>凡_レ 仕一 一五 五^上 五六 凡 五^上 一上 尺 凡_五 一 一〇 </p> <p>れ の か わ べ に た わ む れ ば</p> <p>上_レ 六 五 乙 仕 尺 一 五 尺 尺_レ 一 乙 乙 尺_レ 一 一 〇 </p> <p>ひ な ぎ く よ ろ こ び ま い お ど る</p> <p>上_レ 六 五 六 凡 上_レ 六 一 五 六 凡 工 凡 五 尺_レ 一 一 一 </p> <p>つ た な き う た の か ず か ず も</p> <p>凡_レ 尺 一 尺 一 凡_レ 五 一 五 六 凡_レ 一 尺 一 尺_レ 上 一 一 一 </p> <p>よ う き な と り に や お き に い り</p> <p>上_レ 尺 工 凡 六 五 五 尺_レ 〇 尺一 尺_レ 一 一 五 五^上 五六 凡 </p> <p>お … い と し ジ ニ ー の</p> <p>上_レ 五 一 上 尺 凡_五 一 一 〇 六^四 五 尺 一 尺 一 尺 一 </p> <p>お も か げ よ な つ そ ら が ご と</p> <p>凡^上 六 五 一 上_レ 五 六 一 一 凡_五 一 一 〇 </p> <p>や さ し い ろ よ</p>	<p>尺 一 尺 一 一 乙 尺 乙 五 六 乙 一 尺 工 六 一 一 〇 </p> <p>い と し な れ が あ ま い ろ の</p> <p>六 一 五 乙 尺 一 尺 一 尺 乙 五 六 五 〇 尺 一 </p> <p>か す む よ う な か み の い ろ な</p> <p>尺 一 一 乙 尺 乙 五 六 乙 一 尺 工 六 一 一 〇 </p> <p>れ の か わ べ に た わ む れ ば</p> <p>五 六 尺 一 尺 一 乙 尺 尺 一 尺 一 尺 一 一 〇 </p> <p>ひ な ぎ く よ ろ こ び ま い お ど る</p> <p>五 乙 五 六 五 一 乙 五 六 凡 六 乙 尺 一 一 一 </p> <p>つ た な き う た の か ず か ず も</p> <p>尺 一 尺 一 尺 一 乙 五 六 一 工 一 尺 一 一 〇 </p> <p>よ う き な と り に や お き に い り</p> <p>尺 工 凡 六 五 乙 仕 尺 〇 尺 一 尺 一 一 乙 尺 乙 五 六 </p> <p>お … い と し ジ ニ ー の</p> <p>乙 一 尺 工 六 一 一 〇 五 乙 尺 一 尺 一 尺 一 </p> <p>お も か げ よ な つ そ ら が ご と</p> <p>六 五 乙 一 乙 五 一 一 六 一 一 〇 </p> <p>や さ し い ろ よ</p>
---	---

愛し汝れが亜麻色の
 霞むような 髪の色
 汝れの川辺に戯れば
 雛菊喜び舞い踊る
 拙き歌の数々も
 陽気な鳥にやお気に入り
 お…愛しジニーの面影よ
 夏空がごと 優し色よ

汝れの笑顔に夜(よ)明けて
 いとけなき かがやきよ
 汝れが哀しく歌えば
 嘆きに 心 張り裂けん
 ため息夜風 涙雨
 なくしたものは 還らない
 お…愛しジニーの面影よ
 川辺に浮かぶ 今はなきに

汝れの面影 薄れて
 故郷も はや遠し
 笑みも 優しき歌も
 わずかの 夢と 消え失せん
 川辺の花も枯れ果てて
 美し指の手折るなし
 お…愛しジニーの面影よ
 夏空がごと 優し色よ

Jeanie with the light brown hair

I dream of Jeanie with the light brown hair,
 Borne, like a vapor, on the summer air;
 I see her tripping where the bright streams play,
 Happy as the daisies that dance on her way.
 Many were the wild notes her merry voice would pour,
 Many were the blithe birds that warbled them o'er:
 Oh! I dream of Jeanie with the light brown hair,
 Floating, like a vapor, on the soft summer air.

I long for Jeanie with the day dawn smile,
 Radiant in gladness, warm with winning guile;
 I hear her melodies, like joys gone by,
 Sighing round my heart o'er the fond hopes that die:
 Sighing like the night wind and sobbing like the rain,
 Wailing for the lost one that comes not again:
 Oh! I long for Jeanie, and my heart bows low,
 Never more to find her where the bright waters flow.

I sigh for Jeanie, but her light form strayed
 Far from the fond hearts round her native glad:
 Her smiles have vanished and her sweet songs flown,
 Flitting like the dreams that have cheered us and gone.
 Now the nodding wild flowers may wither on the shore
 While her gentle fingers will cull them not more:
 Oh! I sigh for Jeanie with the light brown hair,

* 演奏解説別掲

OLD FOLKS AT HOME (Swanee River)

思ひでの流れの 彼方に
 懐かしのはらから 今も住めり
 幾山河を越え さすらふ
 この身にも慕わし 我がふるさと

※おちこち さすらひ 嘆きつつ
 我が心わびしや 家を離れ

若き日を 幾年 娛しく
 歌ひつつ 川辺を さまよひしぞ
 たぐひなく 優しき 御母よ
 疾く帰りゆかまし 汝が御許に

※

なつかしのものの音 今なを
 我が胸にわびしく 響きわたる
 愁わしき心に 浮かべる
 思ひでの我が家よ あわれいずこ

※

Way down upon de Swanee ribber,
 Far, far away,
 Dere's wha my heart is turning ebber,
 Dere's wha de old folks stay.
 All up down de whole creation,
 Sadly I roam,
 Still longing for de old plantation,
 And for de old folks at home.

※ All de world am sad and dreary,
 Eb'ry where I roam,
 Oh! darkeys how my heart grows weary,
 Far from de old folks at home.

All round de little farm I wandered
 When I was young,
 Dem many happy days I squandered,
 Many de songs I sung.
 When I was playing wid my brudder
 Happy was I.
 Oh! take me to my kind old mudder,
 Dere let me live and die.
 ※

One little hut among de bushes,
 One dat I love,
 Still sadly to my mem'ry rushes,
 No matter where I rove
 When will I see de bees a humming
 All round de comb?
 When will I hear de banjo tumming
 Down in my good old home?
 ※

004. GENTLE ANNIE

工尺 | 上^六上^六 | 尺^六上尺 | 工^上仕^上 -- | - ○ 乙 五 |
 ああ ア ニ - おさ らば はな
 上^六六^六 -- 五 | 上^六尺工 | 尺^六 -- -- | - ○ 工 尺 |
 の し ぼ む ごと きみ
 上^六上^六 | 尺^六上尺 | 工^上仕^上 -- | - ○ 乙 五 |
 さ れ ど いつ しか わが
 上^六六^六 - 凡工 | 工尺上(尺) | 上^六 -- -- | - - - - ○ |
 む ねの うちに さ け

CHORUS

六六 | 五尺 -- | 仕^上 -- 五 | 六^上 -- -- | 工^上 - 乙 仕 |
 いと しき す が た も かわ
 工^上 -- 尺 | 上^上尺工 | 尺^上 -- -- | - ○ 工 尺 |
 い こえ も うせ て はる
 上^上上^上 | 尺^上上尺 | 工^上仕^上 -- | - ○ 乙 五 |
 が き ても ああ アニー のに
 上^上六^上 - 凡工 | 工尺上(尺) | 上^上 -- -- | - - - - ○ |
 は なの あふれて も

原曲で「(尺)」に該当する箇所は、「上」より低い「乙(春)」なので、月琴では出せない。前符「上」を2拍として飛ばす、1オクターブ上の「乙」で弾くという手もあるが、どちらもあまり聞こえは良くない。より正確なメロディを尺合調で弾けなくもないが、開始が「乙」からで最高音が「凡」となり、演奏上の難度に比して、メリットは少なかった。歌唱の伴奏として、上合調でコードをあざえての演奏がもっとも妥当と考える。

ああアニーおさらば
 花のしぼむがごと
 きみ去るやいつしか
 わが胸のうちに咲かむ

愛しあうあのことろ
 やはらかき汝れが類
 いま汝れを弔う
 花の香につつまれて

※愛しき姿も
 可愛い声も失せて
 春が来ても ああアニー
 野に花のあふれても

※
 ああつもの悲しみ
 やすらかに寝(いぬ)る汝れ
 我そぞろ歩むは
 あの小川あの野原
 ※

Thou wilt come no more,
 gentle Annie,
 Like a flower thy spirit did depart:
 Thou are gone, alas!
 like the many
 That have bloomed in the
 summer of my heart.

※Shall we never more behold thee;
 Never hear thy winning voice again
 When the Spring time comes,
 gentle Annie,
 When the wild flowers are
 scattered o'er the plain?

We have roamed and loved
 mid the bowers
 When thy downy cheeks were in their bloom:
 Now I stand alone
 mid the flowers
 While they mingle their
 perfumes o'er thy tomb.

※
 Ah! the hours grow sad
 while I ponder
 Near the silent spot where thou are laid,
 And my heart bows down
 when I wander
 By the streams and the
 meadows were we strayed.
 ※

005. Under The Willow She's Sleeping

^イ ^イ ^イ | ^凡 ^凡 | ^上 ^六 ^上 ^仕 | ^上 ^六 ^上 ^一 ^上 ^〇 |
 (あの)やなぎ のこか げ に は
^イ ^イ ^イ | ^上 ^尺 ^上 | ^上 ^一 ^尺 | ^上 ^尺 ^上 ^一 ^上 ^〇 |
 あのこ がねむ る の と
^イ ^イ ^イ | ^凡 ^凡 | ^上 ^六 ^上 ^仕 | ^上 ^六 ^上 ^一 ^上 ^〇 ^上 |
 みはは ただな きぬ れ い
^上 ^尺 ^上 | ^上 ^凡 ^上 | ^上 ^尺 ^上 | ^上 ^上 ^一 ^上 ^〇 |
 としき あこに う た う

CHORUS

^上 ^仕 ^上 ^一 ^上 | ^上 ^乙 ^上 ^一 ^上 ^五 | ^上 ^六 ^上 ^一 ^上 ^仕 | ^上 ^六 ^上 ^一 ^上 ^〇 |
 Fair, fair, and golden hair,
^上 ^イ ^上 ^イ | ^上 ^上 ^尺 ^上 | ^上 ^上 ^一 ^上 ^尺 | ^上 ^上 ^尺 ^上 ^一 ^上 ^〇 |
 みはは ひとり う た う
^上 ^仕 ^上 ^一 ^上 | ^上 ^乙 ^上 ^一 ^上 ^五 | ^上 ^六 ^上 ^一 ^上 ^仕 | ^上 ^六 ^上 ^一 ^上 ^〇 |
 Fair, fair, and golden hair,
^上 ^上 ^尺 ^上 | ^上 ^上 ^凡 ^上 | ^上 ^上 ^尺 ^上 | ^上 ^上 ^上 ^一 ^上 ^〇 |
 やなぎの こかげ ねむ る
 いまは なきわ がこ に

1. (あの)柳の木陰には
あの子が眠るのと
御母ただ泣きぬれ
愛しき吾子に歌う

Fair, fair, and golden hair,
※ 御母ひとり歌う

Fair, fair, and golden hair,
柳の木陰眠る

2. 土の中とならば
(わが)歌もとどかない
(でも)遠く鳥は歌う
命輝かせて ※

3. 柳の木の下で
昼も夜もずっと
愛し子を思えど
汝れは帰らない ※

柳の木の下で
永久に祈らむ
4. 天に登る吾子よ
黄金のその髪愛し
※ 今は亡き我が子に

Under the willow she's laid with care
Sang a lone mother while weeping,
Under the willow, with golden hair,
My little one's quietly sleeping.

Fair, fair, and golden hair,
※ Sang a lone mother while weeping,
Fair, fair, and golden hair,
Under the willow she's sleeping.

Under the willow no songs are heard,
Near where my darling lies dreaming;
Nought but the voice of some far off bird
Where life and its pleasures are beaming. ※

Under the willow by night and day
Sorrowing ever I ponder;
Free from its shadowy, gloomy ray
Ah! never again can she wander. ※

Under the willow I breathe a prayer
Longing to linger forever
Near to my angel with golden hair
In lands where there's sorrowing never. ※

006. OLD DOG TRAY

(上合調)

上^{凡_五} | 上凡工凡 | 上^工六^上—^上六 | 上^凡五六工上 | 上^凡五^上—^上五 |
 と きのすぎ て と しをかさ ね は
 上^{凡_五}合^上—^上六^上六 | 上^凡仕^上—^上四^上凡 | 上^凡凡^上—^上工^上五 | 上^工六^上—^上〇^上 |
 て もち か くな り にけ る ゆ
 上^{凡_五} | 上凡工凡 | 上^工六^上—^上六 | 上^凡五六工上 | 上^凡五^上—^上五 |
 めにみつ は た のしきひ び と
 上^凡五^上—^上尺^上六 | 上^凡凡^上—^上工^上工 | 上^凡凡^上—^上— | 上^上—^上—^上〇 |
 も とか け しの よ

CHORUS

上^工仕^上—^上六^上— | 上^工六^上—^上六^上五 | 上^凡凡^上—^上— | 上^上—^上—^上〇 |
 わ が いぬトレイ さ ら ば
 上^工仕^上—^上六^上六 | 上^工六^上—^上凡^上六 | 上^凡五^上—^上— | 上^上—^上—^上上 |
 ちゆうぎ あ つ き た
 上^{凡_五} | 上凡工凡 | 上^工六^上—^上六 | 上^凡五六工上 | 上^凡五^上—^上五 |
 れ より も や さしきか な か
 上^上五^上五^上尺^上六 | 上^凡凡^上—^上工^上— | 上^凡凡^上—^上— | 上^上—^上—^上〇 |
 へ なき わが とも トレイ

(尺合調)

尺 | 尺六凡六 | 五—^上五 | 乙合凡尺 | 乙—^上乙 |
 と きのすぎ て と しをかさ ね は
 上^凡五^上—^上乙^上乙 | 尺^上尺^上—^上仕^上六 | 尺^上六^上—^上凡^上乙 | 尺^上五^上—^上〇^上尺 |
 て もち か くな り にけ る ゆ
 尺六凡六 | 五—^上五 | 乙五凡尺 | 乙—^上乙 |
 めにみつ は た のしきひ び と
 乙—^上工^上五 | 尺^上六^上—^上凡^上凡 | 尺^上六^上—^上— | 尺^上—^上—^上〇 |
 も とか け しの よ

CHORUS

尺^上尺^上—^上五^上— | 尺^上五^上—^上乙^上五 | 尺^上六^上—^上—^上乙^上 | 尺^上尺^上—^上—^上〇 |
 わ が いぬトレイ さ ら ば
 尺^上尺^上—^上五^上五 | 尺^上五^上—^上六^上五 | 尺^上乙^上—^上—^上— | 尺^上—^上—^上尺^上 |
 ちゆうぎ あ つ き た
 尺六凡六 | 五—^上五 | 乙五凡尺 | 乙—^上乙 |
 れ より も や さしきか な か
 乙仕工五 | 尺^上六^上—^上凡^上— | 尺^上六^上—^上—^上— | 尺^上—^上—^上〇 |
 へ なき わが とも トレイ

単純にメロディを再現する場合には、尺合調のほうが運指も楽だし、多少聞こえも良いが、さほどの差はない。

歌唱の伴奏としては、上合調でコードのみをなぞって、軽く刻んだものがもっとも有用と考える。

時の過ぎて 歳を重ね
果ても近く なりにける
夢にみつは 楽しき日々
友と駆けし野よ

※ わが犬 トレイ さらば
その忠義 篤き
誰よりも 優しきかな
かへなき わが友 トレイ

同胞とも いまは欠けて
親しき者 すべて逝き
微笑む貌 さざめく声
絶え 汝の残りしに
※

憶ふむかし あの瞳を
見れば通ず この愁い
言葉ひとつ かわさずとも
ああ わが友よ トレイ
※

The morn of life is past,
And evening comes at last;
It brings me a dream of a once happy day,
Of merry forms I've seen
Upon the village green,
Sporting with my old dog Tray.

Old dog Tray's ever faithful,
※ Grief cannot drive him away,
He's gentle, he is kind;
I'll never, never find
A better friend than old dog Tray.

The forms I call'd my own
Have vanished one by one,
The lov'd ones, the dear ones have all passed away,
Their happy smiles have flown,
Their gentle voices gone;
I've nothing left but old but old dog Tray.
※

When thoughts recall the past
His eyes are on me cast;
I know that he feels what
my breaking heart would say;

Although he cannot speak
I'll vainly, vainly seek
A better friend than old dog Tray.
※

007. Glendy Burke

* 解説別掲

尺 | 六六五五 | 乙乙止根六尺 | 六五乙止尺任 | 五-〇尺 |

ディ グレンディ・パークあでかいふね せんだうもでかい お

六六五五 | 乙乙止根六五 | 乙乙五凡 | 六-〇尺 |

おかぜまけど やねのうえに らんでる よ お

六六五五 | 乙乙止根六尺 | 六五乙止尺任 | 五-〇尺 |

いらもここにやいられねえ まちを でよ う ず

六六五五 | 乙乙止根六五 | 乙乙五凡 | 六-〇尺 |

だに ぼろぎ つめこんで ふねに のる よ

CHORUS

尺一任根 | 乙尺〇尺 | 六六六五五 | 乙-〇尺 |

おお ルイジ ア ナ まちを でよ や ず

六六六五五 | 乙乙止根六五 | 乙乙五凡 | 六-〇尺 |

だに ぼろぎ つめこんで ふねに のる よ

ディ・グレンディ・パークあ でかい船 船頭もでかい
大風巻けど屋根のうえに らんでるよ
おいらもここにやいられねえ 町を出よう
頭陀に襤褸着つめこんで 船に乗るよ

※ おお、ルイジアナ！ 町を出よや
頭陀に襤褸着つめこんで 船に乗るよ

ディ・グレンディ・パークの 船乗りは 陽気に歌う
窯に炊きものぶちこんで 船は進む
煙吐きエンジンうなっては 外輪の回る
ちよいと乗りたや粋な船 ディ・グレンディ・パーク ※

薔薇の花みた べっぴんに めぐり逢いたや
輝く故郷(さと)に誘ひて とともに暮らそ
だからわが君焦らすなよ 可愛いブラウン嬢
週のなかば 船きたら いっしょに往こう ※

De Glendy Burk is a mighty fast boat,
Wid a mighty fast captain too;
He sits up dah on de hurricane roof
And he keeps his eye on de crew.
I cant stay here, for dey work too hard;
I'm bound to leave dis town;
I'll take my duds and tote 'em on my back
When de Glendy Burk comes down.

※ Ho! for Lou'siana!
I'm bound to leave dis town;
I'll take my duds and tote 'em on my back
When de Glendy Burk comes down.

De Glendy Burk has a funny old crew
And dey sing de boatman's song,
Dey burn de pitch and de pine knot too,
For to shove de boat along.
De smoke goes up and de ingine roars
And de wheel goes round and round,
So fair you well! for I'll take a little ride
When de Glendy Burk comes down. ※

My lady love is as pretty as a pink,
I'll meet her on de way
I'll take her back to de sunny old south
And dah I'll make her stay
So dont you fret my honey dear,
Oh! dont you fret Miss Brown
I'll take you back 'fore de middle of de week
When de Glendy Burk comes down. ※

008. Hard Times Come Again No More

凡六 | 五^凡-五^五-五 | 五仕^一-五 | 六^凡凡^一-六 | 五^〇凡^一 |

よろこび-の かげ にや なみだあり みる

仕^凡-五^凡凡 | 六^上五^五-五 | 六^一- - - | -〇凡六 |

な みんな して-る さ ころ

五^凡-五^五-五 | 五仕^一-五 | 六^凡凡^一-六 | 五^〇凡^一 |

とも ぐち も みみにタ コ もう

仕^凡-五^凡凡 | 六^上五^六 | 凡^一- - - | -〇五^五 |

なんもかも まっぴら さ なげ

仕^凡-仕^仕-仕 | 仕^仕乙^仕仕 | 仕^一- - - | 仕^一- - 〇 |

いて ばかりで いい の

凡^五 凡^一-仕^一 | 仕^一-仕^五 | 五^五六^凡 | 六^〇凡^六 |

なんも かんも まっぴら だ うろ

五^凡-五^五-五 | 五仕^一-五 | 六^凡凡^一-六 | 五^〇凡^一 |

ちよろ しても はじまら ぬ もう

仕^凡-仕^六凡 | 六^上五^六 | 凡^一- - - | -〇 |

なんもかも まっぴら さ

Let us pause in life's pleasures and count its many tears,
While we all sup sorrow with the poor:
There's a song that will linger forever in our ears:
Oh Hard times come again no more.

(Chorus)

'Tis the song, the sigh of the weary,
Hard Times, hard times, come again no more
Many days you have lingered around my cabin door:
Oh hard times come again no more.

While we seek mirth and beauty and music light and gay,
There are frail forms fainting at the door:
Though their voices are silent, their pleading looks will say
Oh hard times come again no more.

(Chorus)

There's a pale drooping maiden who toils her life away,
With a worn heart whose better days are o'er:
Though her voice would be merry, 'tis sighing all the day,
Oh hard times come again no more.

(Chorus)

'Tis a sigh that is wafted across the troubled wave,
'Tis a wail that is heard upon the shore
'Tis a dirge that is murmured around the lowly grave
Oh hard times come again no more.

(Chorus)

「喜びのかけにや涙あり」

みんな みんな 知ってるさ
小言も愚痴も 耳にタコ
もう なんもかも まっぴらさ

嘆いて ばかりで いいの？
※ なんも かんも まっぴらだ
うろちよろしても はじまらぬ
もう なんもかも まっぴらさ

おキレイなだけの 歌なんて
ゴミにして 投げ捨てろ
声なき声を 歌にしよう
そう「なんもかも まっぴらさ」
※

恋せよ乙女 他人の言う
幸せは続かない
陽気な声も 溜息に
ああ なんもかも
まっぴらさ ※

人生港に 浮かぶ声
岸打つ 叫び声
墓場に唱う お題目
そんなもん ばっか
歌う気かい？※

009. Nelly was a Lady

(尺合調)

尺_六 尺_六 凡 | エ 凡_六 五 | 乙_合 - - - | 凡_五 - 〇 〇 |

ミ シ シ ッ ピ か わ の な が れ

乙_合 - 五 六 | エ 凡_六 五 | 尺_六 - - - | - - - 〇 |

ず い ぶ ん お つ か れ だ

尺_六 尺_六 凡 | エ 凡_六 五 | 乙_合 - - - | 凡_五 - 〇 〇 |

よ っ ぴ き わ た を は こ び

乙_合 - 五 六 | エ 凡_六 五 | 尺_六 - - - | - - - 〇 |

ひ る に や こ い う た を

CHORUS

尺_六 尺_六 凡 | エ 尺_六 - 〇 | 凡_五 乙_合 五 六 | 尺_五 - - 〇 |

ネ リー の ね え さ ん い っ た そ う な

乙_合 乙_合 五 六 | エ 凡_六 五 | 乙_合 尺_五 乙_合 五 | 尺_六 - - 〇 |

か ね を な ら せ い と し ネ リー よ

ミ シ シ ッ ピ 河 の 流 れ
ず い ぶ ん お 疲 れ だ
夜 っ ぴ き 綿 を 運 び
昼 に や 恋 歌 を

※ ネ リー の 姐 さ ん
逝 っ た そ う な
鐘 を 鳴 ら せ
愛 し ネ リー よ

こ ん な に 泣 き 濡 れ て は
綿 も 運 び や せ ぬ
昨 晩 (ゆ ん べ) 眠 る ネ リー に
死 神 訪 (お と の) う た ※

Down on de Mississippi floating,
Long time I trabble on de way,

ALL night de cotton wood a toting,
Sing for my true lub all de day.

※ Nelly was a lady,
Last night she died;
Toll de bell for lubly Nell. My
dark Vilginny bride.

Now I'm unhappy and I'm weeping,
Can't tote de cotton wood no more;

Last night, while Nelly was a sleeping,
Death came a-knock'in at de door.

※ Nelly was a lady,
Last night she died;
Toll de bell for lubly Nell. My
dark Vilginny bride.

010. My Old Kentucky Home (尺合調)

合 合 R 合 合
 五 | 乙-乙- | 六-五乙 | 仕-乙仕任 | 俣-〇仕 |
 な っ か し わが ふ るさと へ な
 合 合 R 合 R 合
 乙五-六 | 六凡-六 | 五- | - | 五 |
 つの ひ きた れ ば は
 合 合 R 合 合
 乙-乙- | 六-五乙 | 仕-乙仕任 | 俣〇六五 |
 た け は み のり は な は さ き きぎ
 合 合 R 合 R 合
 乙-乙- | 五六乙五 | 六- | - | 〇六五 |
 に こ とり うた う おさ
 合 合 R 合 合
 乙-乙- | 六-五乙 | 仕-乙仕任 | 俣-〇仕 |
 な ご は たわ む れあそ び わ
 合 合 R 合 R 合
 乙五-六 | 六凡-六 | 五- | - | 〇五 |
 らい へ やに み つ さ
 合 合 R 合 合
 乙-乙- | 六-五乙 | 仕-乙仕任 | 俣〇六五 |
 れ ど か なし そはゆめ か わか
 合 合 R 合 R 合
 乙六仕乙 | 五-凡 | 六- | - | 〇 |
 るるひと な り め

chorus

合 合 合 合
 俣-乙 | 仕-任- | 俣乙- | - | 〇五- |
 あ あ わ が きみ し
 工 合 合 R 合 合
 六-五 | 六-工- | 六- | - | 〇六五 |
 の び た ま え いざ
 合 合 R 合 合
 乙-乙- | 六-五乙 | 仕-乙仕任 | 俣-六五 |
 う た わん わか れのふし を さら
 合 合 R 合 R 合
 乙六仕乙 | 五-五凡 | 六- | 〇 |
 ばケンタッ キーのい-え よ

1. 懐かし わがふるさとに
 夏の日 来たれば
 畑は実り 花は咲き
 木々に 小鳥歌う
 幼子 たわむれあそび
 笑い 部屋に満つ
 されど悲し そは夢か
 別るる 日となりぬ

※ああ わが君 しのびたまえ
 いざ歌わん 別れの節を
 さらば ケンタッキーの家よ

2. 今は丘や 野や海辺
 さすらう 日もあらず
 月の夜 家のほとりに
 歌うおりも あらず
 むなく 心に浮かぶ
 古き おもいでよ
 親しき わが はらからに
 別るる 日となりぬ
 ※

3. はるかに わが家をはなれ
 なんの やすきあらん
 されど はかなき 旅路も
 やがて 果つる日あり
 負いがたき 重荷でさえも
 耐えて われは負わん
 いまこそ わが はらからに
 別るる 日となりぬ
 ※

* 解説別掲

Oh, the sun shines bright in the old Kentucky home
 'Tis summer, the darkies are gay
 The corn top's ripe and the meadows in the bloom
 While the birds make music all the day

The young folks roll on the little cabin floor
 All merry, all happy and bright:
 By'n the Hard Times come a knocking at the door
 Then my old Kentucky home, goodnight!

※ Weep no more, my lady
 Oh, weep no more today!
 We will sing one song for the old Kentucky home
 For the old Kentucky home, far away

They hunt no more for the possum and the coon
 On the meadow, the hill and the shore
 They sing no more by the glimmer of the moon
 On the bench by the old cabin door

The day goes by like a shadow o'er the heart
 With sorrow, where all was delight:
 The time has come when the darkies have to part
 Then my old Kentucky home, good night!
 ※

The head must bow and the back will have to bend
 Wherever the darkey may go:
 A few more days, and the trouble all will end
 In the field where the sugarcane grow

A few more days for to tote the weary load
 No matter, 'twill never be light
 A few more days till we totter on the road
 Then my old Kentucky home good night!
 ※

012. Why No One To Love

(前奏・間奏)

工尺工 | 凡工凡 | 六任一 | 伋仕乙五六月 |

工乙仕 | 伋一仕 | 仕一一 | 一一〇 |

工尺工 | 凡工凡 | 六任伋 | 伋一仕五 |

いとし もの なきよ は はた

工六尺工 | 六凡尺 | 工一一 | 一一〇 |

ひかり あらぬ か

工尺工 | 凡工凡 | 六任伋 | 伋一仕五 |

ひとり ところ さまよ わ する

工六尺工 | 六凡尺 | 上一一 | 一一〇 |

そらの あおく も

六凡六 | 乙一一 | 六凡六 | 仕一一 |

こい も なさけ も

工六〇 | 工尺上 | 尺一一 | 一一〇 |

そう すばら し

工尺工 | 凡工凡 | 六任伋 | 伋一仕五 |

いとし もの なけれ ば ただ

工六仕任 | 伋五乙 | 仕一一 | 一一〇 |

ためい ぎつ の る

愛しものなき世は はた 光あらぬか
ひとり心さまよわ する 空の青くも

※ 恋も 情けも

そう 素晴らし

愛しものなければ ただ

溜息つる

闇を好みあたられば はた 輝き失せて

御魂くすみさみしや そう 愛のなければ ※

誰かひとりこの世に はた 思い人あれ

喜び悲しみすべてを わかち合えれば ※

No one to love in this beautiful world, Full of
warm hearts and bright beaming eyes?

Where is the lone heart that nothing can find That is
lovely beneath the blue skies:

※ No one to love, No one to love,
Why no one to love?

What have you done in this beautiful world,
That you're sighing of no one to love?

Dark is the soul that has nothing to dwell on!
How sad must its brightest hours prove!
Lonely the dull brooding spirit must be
That has no one to cherish and love.

※

What have you done in this beautiful world,
That you're sighing of no one to love?

Many a fair one that dwells on the earth
Who would greet you with kind words of cheer,
Many who gladly would join in your pleasures
Of share in your grief with a tear.

※

Where have you roamed in this beautiful world,
That you're sighing of no one to love?

014. Dolly Day

(前奏・間奏)

尺-工尺六 | 乙-尺尺 | 工-六工六 | 仕-〇仕 |

乙-尺- | 工仕六五 | 乙-仕乙五六五 | 六- -

尺 | 尺-工尺六 | 乙-尺尺 | 工-六工六 | 仕-〇仕 |

さあ ならせや バンジョウ こきゅうも ね

^R乙-尺- | 工仕六五 | 乙-仕乙五六五 | 五- - 尺 |

おう たも しごとも いしよくた

尺-工尺六 | 乙-尺尺 | 工-六工六 | 仕-〇仕 |

かみさん なんて しらんけど

^R乙-尺- | 工仕六五 | 乙-仕乙五六五 | ^R六- - 六五 |

ドリー デイの ことなら なんでもござれ おお

^R乙-尺- | 工仕六五 | 乙乙五六 | ^R五-〇五 |

ドリー デイ ベっぴんさんよ それぞれまわれ さあ

^R乙-尺- | 工仕六五 | 乙乙五五 | ^R六- - 〇 |

まねして おどろや おみあしかろく

上合調で弾けるが、メロディをなぞるだけなら、開放で「尺」が使える尺合調のほうが良い。

コードは上合調に準拠。カッティングでリズムを刻む。

さあ 鳴らせやバンジョウ 胡弓もね
お歌も仕事も いっしょくた
神さんなんて 知らんけど
ドリー・デイのことなら
なんでもござれ

※ おおドリー・デイ ベっぴんさんよ
※ それぞれ まわれ
さあ 真似して 踊ろや
お御足軽く

そう 牧場はずっと 緑色
タバコもキビも 豊作の
故郷はとおに 荒みしが
ドリー・デイはいまでも
輝くよ ※

I've told you 'bout de banjo,
De fiddle and de bow,
Like-wise 'bout de cotton-field,
De shubble an de hoe:
I've sung about de virgine,
That blew de folks away,
And now I'll sing a little song
A-bout my Dolly Day.

※ Oh! Dolly Day looks so gay,
I run al'round and round,
To hear her fairy footstep play,
As she comes o'er de ground.

I like to see de clover,
That grows 'bout de lane,
I like to see de 'bacco plant,
I like de sugar cane:
But on de old plantation,
There's nothing half so gay,
There's nothing that I love so much,
As my Sweet Dolly Day. ※

015. Ellen Bayne

上_六一_六工六 | 合_上工_上仕_上〇 | 凡_上五_上凡_上仕_上五 | 上_上六_上一_上一_上〇 |

あはきま どろみ とお のけ ば

上_六一_六工六 | 合_上工_上仕_上〇 | 凡_上一_上凡_上仕_上乙 | 上_上仕_上一_上一_上〇 |

く-さぐさ よする むね のう ち

凡_上五_上一_上乙_上仕_上 | 上_上仕_上一_上六_上六 | 凡_上五_上仕_上凡_上 | 合_上一_上仕_上一_上一_上〇 |

ゆめつた な く-も のぞみあ り

上_六一_六工六 | 合_上工_上仕_上〇 | 上_上仕_上一_上凡_上仕_上乙 | 上_上仕_上一_上一_上〇 |

え が お さ-く か あ あ エ-レン ベイ ン

合_上一_上仕_上六_上五_上仕_上 | 合_上一_上仕_上一_上凡_上仕_上一_上 | 合_上一_上仕_上六_上五_上仕_上 | 凡_上一_上仕_上一_上仕_上一_上 |

やすらに ね-むれ くすしき ゆめに

上_上上_上工六 | 合_上一_上仕_上一_上凡_上仕_上一_上 | 合_上一_上仕_上一_上凡_上仕_上乙 | 上_上仕_上一_上一_上〇 |

はたにま も-らむ ああ エ-レン ベイ ン

チョーキングは「凡_上」一箇所のみであるが、「上」が使われるので尺合調では弾けない。

なお尺合調だと、「尺」「六」より開始の2パターンがあるが、どちらもチョーキングが多かったり、高音すぎたりでいまひとつ優点がない。

上合調でのんびり弾きながら唱えるのがよからう。

淡き微睡
遠退けば
くさぐさ寄する
胸のうち
夢つたなくも
のぞみあり
笑顔 咲くか
おお エレン・ベイン

※ やすらに眠れ
くすしき夢に
傍に 護らむ
おお エレン・ベイン

夢見のやすく
穏やかに
言葉いらぬ
愛あらば
寝ても覚めても
健やかに
温もりのうち
おお エレン・ベイン
※

Soft be thy slumbers,
rude cares depart,
Visions in numbers
cheer thy young heart,
Dream on, while bright hours
and fond hopes remain,
Blooming like smiling bow'rs
for thee, Ellen Bayne.

※ Gentle slumbers o'er thee glide,
Dream of beauty round thee bide,
While I linger by thy side,
Sweet Ellen Bayne.

Dream not in anguish,
dream not in fear;
Love shall not languish:
fond ones are near,
Sleeping, or waking,
in pleasure or pain,
Warm hearts will beat for thee,
Sweet Ellen Bayne.

※

016. Farewell, My Lilly Dear

五^上 | 六^上 工^上 尺^上 上^上 | 仕^上 - 任^上 退^上 | 仕^尺 五^尺 六^尺 工^尺 | 尺^上 - - 上^尺 |
 お り り さ ん や ちよいと きいとく れ そら

工^上 六^上 六^上 仕^上 | 任^上 退^上 仕^上 - | 尺^上 尺^上 五^上 乙^上 | 仕^上 - - 五^上 |
 だんなの せいさ ここにやおら れん い

工^上 六^上 工^上 尺^上 上^上 | 仕^上 - 任^上 退^上 | 仕^尺 五^尺 六^尺 工^尺 | 尺^上 - - 上^尺 |
 と し り り さ ん テネ シ-もさら ば なく

工^上 六^上 六^上 仕^上 | 任^上 退^上 仕^上 - | 尺^上 尺^上 五^上 乙^上 | 仕^上 - - 〇 |
 にやおよば ないよ おいらのため に

[2^上 六^上 - 六^上 - | 五^上 仕^上 - 任^上 | 尺^上 尺^上 仕^上 尺^上 | 任^上 - - 〇 |
 さ らば ふる さ と テネ シー

工^上 仕^上 - 乙^上 五^上 | 六^上 仕^上 任^上 - | 尺^上 尺^上 仕^上 乙^上 | 仕^上 - - 〇 |]
 さ らば り り さ ん な く な よ

おりりさんや ちょいと
 聞いとくれ
 そら旦那のせいさ
 ここにやおられん
 愛しりりさん
 テネシーもさらば
 泣くにやおよばないよ
 おいらのために

どこかにある
 場所に行くんだ
 ただバンジョウ弾いてりゃ
 いい世界
 そんなところに
 たどりつくまで
 旅路は続くよ
 愛し人よ
 ※

※さらば ふるさと テネシー
 さらば りりさん
 泣くなよ
 (2回くりかえし)

Oh! Lilly dear it grieves me,
 The tale I have to tell:
 Old mas'sa sends me roaming,
 So, Lilly, fare you well!
 Oh! fare you well, my true love,
 Fare-well, old Tenessee;
 Then let me weep for you, love,
 But do not weep for me,

※ Farewell, Farewell to old Tenessee
 Farewell my Lilly dear,
 Don't weep for me.

※

I's going to roam the wide world,
 In lands I never hoed;
 With nothing but my banjo,
 To cheer me on the road,
 For when I'm sad and weary,
 I'll make the banjo play,
 To mind me of my true love,
 When here I am far away.

※※

002. Jeanie with the light brown hair

邦題では「金髪のジェニー」とされることが多いが、原題の発音は「ジニー」に近く、しかも「薄茶色の髪の毛」である。正確に言うなら“light brown”は「亜麻色」よりはやや暗めだが、ちょうどいい表現がないので代用しておく。

器楽としてトレモロでメロディを弾くならD/Gのほうが美しく、歌唱との伴奏ではC/Gでコード弾きを交えたもののほうが望ましい。

003. OLD FOLKS AT HOME (Swanee River)

原題“Old folks at home”より、通称の「スワニー河」のほうで知られる。

前曲同様、メロディを聞かせるなら尺合調のほうが良い。歌唱の伴奏は上合調で、各小節頭に開放弦の音を加える程度が聞きやすい。

007. Glendy Burke

上合調で組んであるが、要チューニング箇所は「凡▼」のみなので、尺合調にして開放音をからませながら弾いたほうが良い。

010. My Old Kentucky Home

チューニングは「凡▼」のみなので、上合調でも良いが、尺合調のほうが若干耳触りが良い。

小文字のコード弾符も尺合調に順ずる。よって低音開放は「尺」、**「凡」**はデフォルトで半音上のF'である。

013. Beautiful Dreamer

原譜9/8。そのままだと読み解きづらいため、工尺符は各符の音長を2倍にしてある。

メロディをなぞった場合、上合調の場合だとどうしても2音足りない。「𠂇(乙のオクターブ下)」は「乙」として弾いても良いが、「上▼」は月琴だとどうやっても出せないで、「尺(上▼尺)五」は「尺—五」と2音飛ばして弾く。

尺合調にした場合も状況はあまり変わらないうえ、出だしが「𠂇▼」と、清楽月琴ではいきなりチューニングからはじまることとなるなど、演奏上の困難が多い。

歌唱との伴奏を主として考えた場合、出せない2音をあきらめて、上合調でメロディをなぞるか、コード弾きに徹するのが最も有効と考える。

Carry Me Back To Old Virginnny (尺合調)

乙乙一仕 | 乙一五 | 五一一工 | 尺六一〇 |
かへ ら む なつ か し-の ちへ

尺一六五 | 乙乙仕乙 | 乙五五乙 | 五一一〇 |
わ た-に とおき-び いもみの る

乙一仕乙 | 乙一五六 | 五一六工 | 尺六一〇 |
は るにや と りあ ま く-う たふ

尺一六五 | 乙乙仕乙 | 乙五六凡 | 六一一〇 |
ほ く-の こころ-も そこに-あ る

五一五乙 | 仕伏仕乙 | 乙一乙止 | 伏乙一〇 |
あ-るじ-の た-めとて し お-に かく

伏一仕乙 | 乙一五六 | 六工凡六 | 五一一〇 |
とおき-び は た-に ひもくれ て

乙一仕乙 | 乙一五六 | 五一六工 | 尺六一〇 |
よ に-ほ か かは る も-あ らね

尺一六五 | 乙乙仕乙 | 乙五六凡 | 六一一〇 |
な-つか-し ヴァージニィ わが こきよ う

還らむ懐かしの地へ
綿に唐黍 芋稔る
春にや鳥甘く歌ふ
僕の心のそこにある

主のためと手塩にかく
唐黍畑に日も暮れて
世に他かはるもあらね
懐かしヴァージニィ わが故郷

還らむ懐かしの地へ
この身 枯れて果てるまで
かの大沼 めぐりながら
僕の命の 尽くるまで

主も刀自もとおに亡く
天の原にいまは待つ
悲しみも憂いもなく
ずっと微笑み待っている

Carry me back to old Virginnny.
There's where the cotton and the corn and tatoes grow.
There's where the birds warble sweet in the spring-time.
There's where this old darkey's heart am long'd to go.

There's where I labored so hard for old Massa,
Day after day in the field of yellow corn;
No place on earth do I love more sincerely
Than old Virginnny, the state where I was born.

Carry me back to old Virginnny,
There let me live till I wither and decay.
Long by the old Dismal Swamp have I wandered,
There's where this old darkey's life will pass away.

Massa and missis have long gone before me,
Soon we will meet on that bright and golden shore.
There we'll be happy and free from all sorrow,
There's where we'll meet and we'll never part no more.

Green Sleeves

五 | 仕一 伏 | 任-凡任 | 伏一 乙 | 六-五乙 |

あ らあす まい ら-あぶ-ゆう どう みい ろお-ん とう

仕一 五 | 五-合五 | 乙一 合 | エ〇五 |

きやす み あ-ふ でいす- こお-てう -すりい ふお

仕一 伏 | 任-凡任 | 伏一 乙 | 六-五乙 |

ない はぶ ら~(ぶ)どゆう うえる えん ろお-おん(ぐ)

仕乙 五 | 合 凡 合 | 五一 五 | 五一 〇 |

でい-らあい- ていんいん いえ かあ-ん-ば- にい

伏一 一 | 伏-凡任 | 伏一 乙 | 六-五乙 |

ぐりい-ん すりい-ばさあず あ-る まい じよ-おおい

仕一 五 | 五-合五 | 乙一 合 | エ一 〇 |

ぐりい-ん すりい-ぶすあず まい でい らい(と)

伏一 一 | 伏-凡任 | 伏一 乙 | 六-五乙 |

ぐりい-ん すりい-ばあすまい はあ-たぶ ごお-お(で)えん

仕乙 五 | 合 凡 合 | 五一 一 | 五一 一 |

ふうばつ(と)まい れ-えい-でいぐりい-ん すりい- (ぶす)

Alas, my love, you do me wrong,
To cast me off discourteously!
For I have loved you so long,
Delighting in your company.

Greensleeves was all my joy,
Greensleeves was my delight,
Greensleeves was my heart of gold,
And who but my lady greensleeves?

Alas, my love, that you should own
A heart of wanton vanity!
So must I meditate alone
Upon your insincerity?

Greensleeves was all my joy,
Greensleeves was my delight,
Greensleeves was my heart of gold,
And who but my lady greensleeves?

Your vows you've broken like my heart.
Oh, why did you so enrapture me?
Now I remain in a world apart,
But my heart remains in captivity.

Greensleeves was all my joy,
Greensleeves was my delight,
Greensleeves was my heart of gold,
And who but my lady greensleeves

Danny Boy

○工凡六 | 五^凡—一六 | 五^工尺仕五 | 六^上凡尺^六— |
まきば の ふ えのねは ひびく

○凡五五 | 仕^凡—一尺 | 仕五凡五 | 六^上—一〇 |
やまか ら や まへかけ て

○工凡六 | 五^凡—一六 | 五^工尺仕五 | 六^上凡尺^六— |
なつゆ き バ ラもはや おちて

○工凡六 | 五^凡—一五^上 | 五六凡六 | 凡^上—一〇 |
わかれ の と きはきた よ

○仕尺任 | 尺^四—一任 | 任尺仕尺 | 仕五凡^五 |
もしも た に にゆきが ふれば

○仕尺任 | 尺^四—一任 | 任尺仕五 | 六^上—一〇 |
ふたたび か えりませ よ

○仕乙仕 | 仕^上—一尺 | 尺尺尺尺 | 仕五凡^五 |
いとし き み をここに まとう

○工凡六 | 五^凡尺仕五 | 六^上凡尺上 | 凡^上—一〇 |
ひるも よるもた ださびし く

牧場の笛の音は響く
山から山へかけて
夏ゆき薔薇もはや落ちて
別れの時はきたよ
もしも谷に雪が降れば
ふたたび還りませよ
愛しき身をここに待とう
昼も夜もただ寂しく

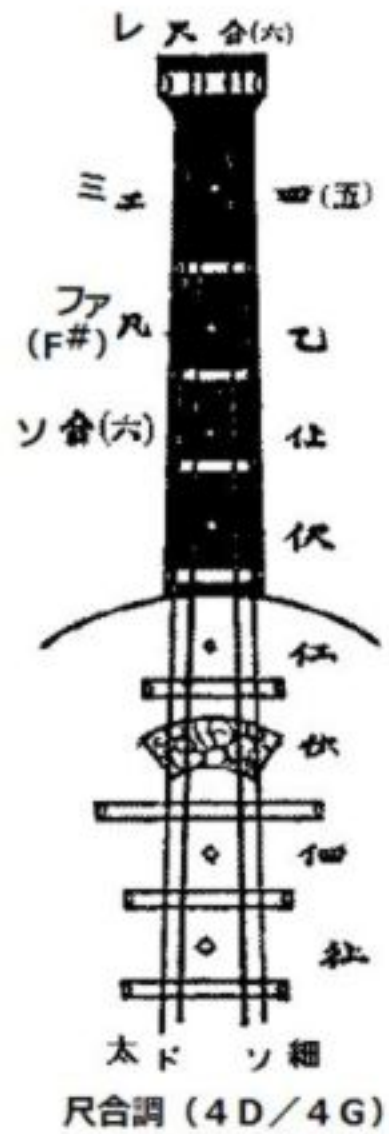
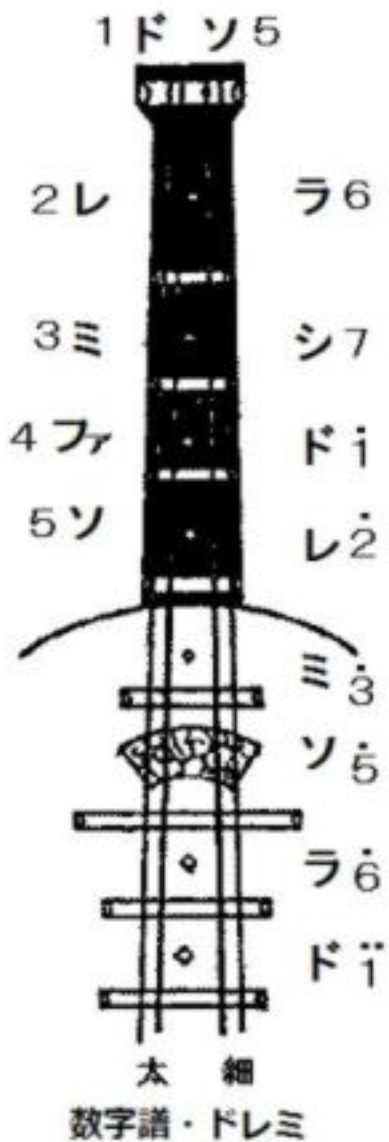
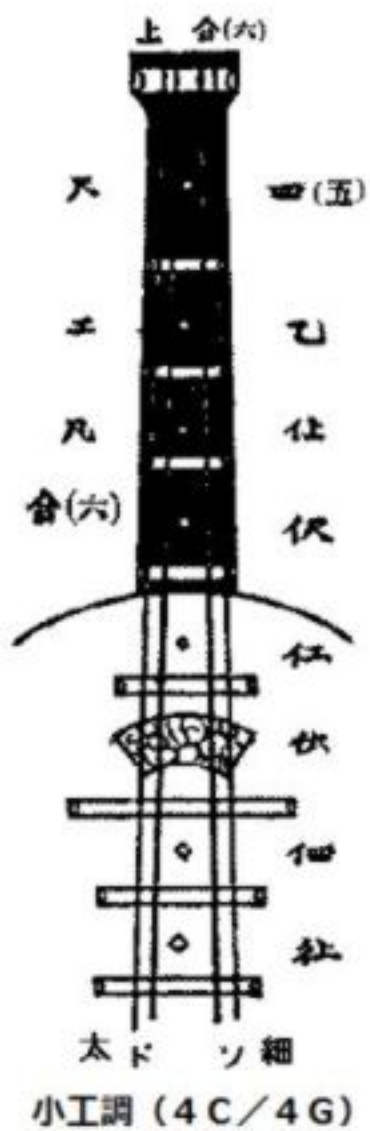
また遭うその日が来ても
われ世を去りてなくば
奥津城に花をささげ
わがために祈りてよ
その声はよし低くとも
奥津城はなごやかに
君のまごころうれしみて
静かに眠ろよ永久に

O Danny boy, the pipes, the pipes are calling
From glen to glen and down the mountainside
The summer's gone and all the roses falling
'Tis you, 'tis you must go and I must bide.

But come ye back when summer's in the meadow
Or when the valley's hushed and white with snow
'Tis I'll be here in sunshine or in shadow
O Danny boy, O Danny boy, I love you so.

But if ye come and all the flowers are dying
If I am dead, as dead I well may be,
You'll come and find the place where I am lying
And kneel and say an Ave there for me.

And I shall hear, though soft, your tread around me
And all my grave shall warmer, sweeter be
Then you'll bend down and tell me that you love me,
And I will sleep in peace until you come to me.



猫又学魔法

